

第98回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和4年8月4日（火）14：00－14：20

2. 場所：中央合同庁舎4号館1208特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

遠藤委員、片岡委員、後藤委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、鈴木委員、常田委員、松尾委員

(2) オブザーバー

小林宇宙政策担当大臣、大野内閣府副大臣、森昌文内閣総理大臣補佐官、田和内閣府事務次官、山川宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事長

(3) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官

4. 議事録

○滝澤参事官 それでは、時間になりましたので、第98回「宇宙政策委員会」を開催させていただきます。冒頭でございますけれども、長年、宇宙政策に貢献していただきました故葛西委員長に黙禱をささげたいと思います。大変恐縮ですが、皆様、御起立をお願いいたします。

（一同起立）

○滝澤参事官 黙禱。

（黙禱）

○滝澤参事官 御着席をお願いいたします。ありがとうございました。

本日は、7月31日付で新たに任命された委員の皆様によります新体制で最初の宇宙政策委員会となります。委員長が選任されるまでの間、私、事務局参事官の滝澤が議事を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、小林宇宙政策担当大臣、大野内閣府副大臣、森総理補佐官、田和内閣府事務次官、山川JAXA理事長にも御出席いただいております。

まず初めに、新たに任命された委員の皆様を事務局より御紹介させていただきます。五十音順に御紹介させていただきますので、御起立の上、一礼を頂戴できれば幸いです。

遠藤典子委員です。

片岡晴彦委員です。

後藤高志委員です。

櫻井敬子委員です。

篠原真毅委員です。

白坂成功委員です。

鈴木一人委員です。

常田佐久委員です。

松尾亜紀子委員です。

どうもありがとうございました。

続きまして、委員長の互選を行いたいと存じます。宇宙政策委員会令第4条におきまして、宇宙政策委員会に委員長を置き、委員の互選により選任する旨を規定しております。

事前に、事務局におきまして委員の皆様の御意向を伺ったところ「後藤委員に委員長をお願いするのがよい」との御意見を頂戴しておりますので、後藤委員に委員長をお願いできればと思いますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

○滝澤参事官 ありがとうございます。

委員の皆様の互選によりまして、後藤委員を宇宙政策委員会の委員長として選任していただきました。後藤委員長、委員長席に御移動をお願いいたします。

(後藤委員長 委員長席に移動)

○滝澤参事官 それでは、大変恐縮でございますけれども、後藤委員長より一言御挨拶をお願い申し上げます。

○後藤委員長 ただいま委員長に選任されました後藤でございます。

我が国の安全保障や経済社会における宇宙システムの役割が大きくなっている中、宇宙政策委員会の委員長という重責を担うこととなりました。委員の皆様のお力を借りながら、宇宙政策の強化に向けてしっかりと職責を果たしてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくをお願いいたします。

○滝澤参事官 後藤委員長、どうもありがとうございました。

続きまして、委員長代理の指名をお願いしたいと存じます。宇宙政策委員会令第4条第3項におきまして、あらかじめ委員長が指名する委員が職務を代理することとされております。

○後藤委員長 宇宙政策委員会令第4条第3項に基づき、常田委員に委員長代理をお願いしたいと思います。

○滝澤参事官 常田委員、大変恐縮でございますけれども、お座席を御移動いただけますでしょうか。

(常田委員長代理 委員長代理席に移動)

○滝澤参事官 それでは、大変恐縮でございますけれども、常田委員長代理にも一言御挨拶をお願い

いたします。

○常田委員長代理 常田でございます。

今、後藤委員長から委員長代理の御指名をいただきました。微力でございますが、謹んでお受けいたします。どうかよろしく願いいたします。

○滝澤参事官 後藤委員長、常田委員長代理、どうもありがとうございました。

続きまして、基本政策部会と宇宙安全保障部会の部会長の指名についてでございます。宇宙政策委員会令第6条第3項におきまして、委員長が指名することとされております。

○後藤委員長 宇宙政策委員会令第6条第3項に基づき、基本政策部会長を白坂委員に、宇宙安全保障部会長を鈴木委員にお願いしたいと思います。

○滝澤参事官 後藤委員長、どうもありがとうございました。

白坂部会長、鈴木部会長、どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、ここからは、後藤委員長に議事の進行をお願いいたします。どうぞよろしく願い申し上げます。

○後藤委員長 ありがとうございます。それでは、議事を進めさせていただきます。

本日は、小林宇宙政策担当大臣に御臨席いただいておりますので、御挨拶を頂戴したいと思います。小林大臣、どうぞよろしく願いいたします。

○小林大臣 宇宙政策担当大臣の小林鷹之でございます。

本日、改組後の宇宙政策委員会に委員の皆様、本当に御多忙の中、御出席をいただきまして本当にありがとうございます。また、霞が関のルールで室温が若干高めとなっております。本当に恐れ入ります。リラックスしていただければと思います。

今、皆様の互選によりまして、後藤委員長、また、常田委員長代理はじめ、委員の皆様方におかれましては、それぞれ宇宙工学、宇宙科学、あるいは宇宙安全保障、法律、様々な分野の専門家でございますし、また、幅広い視点から宇宙政策を語っていただける、考えていただける、そうそうたる皆様方にこの委員をお引き受けいただきましたこと、心から感謝を申し上げたいと思います。これからますます重要性を増していく宇宙政策でございますので、こうした多士済々の委員の皆様方と一緒に議論させていただけること、非常に楽しみにしております。

皆様御案内のとおり、この宇宙政策委員会は2012年に発足して設立10年が既に経過いたしました。冒頭、黙禱をささげさせていただきましたけれども、故葛西敬之委員長をはじめ、前委員会の委員の皆様方には御尽力いただいたおかげで我が国の宇宙政策は大きく前進したと思っています。

ただ最近、ますます安全保障あるいは私たちの経済社会が宇宙システムに依存していく中でその役割は高まっておりますし、経済安全保障上の重要性も飛躍的に高まっております。また、災害対策でのさらなる貢献が求められる現実がございますし、まさに科学技術のフロンティアとして、宇

宙科学や探査、そして、経済成長とイノベーションの推進役として宇宙はその役割をどんどん増していると認識しております。

課題は山積しておりますし、国際競争もかなり熾烈な状況になってきておりますので、我が国の宇宙活動の自立性。これは今の宇宙基本計画にも中心となる概念として位置づけておりますけれども、この自立性をしっかりと支えていくための産業基盤ですとか科学技術の基盤をしっかりと構築していかなければなりませんし、そこはかなりスピーディーにやっていかなければそもそも勝負にならない。そういう危機感を持っております。

特に、少し前に宇宙開発戦略本部。これは岸田総理が本部長ですけれども、総理からも重点事項として幾つか指示がございまして、まずは宇宙空間にアクセスするための能力、いわゆるロケットの打ち上げ能力をしっかりと抜本的に強化していくこと。また、衛星コンステレーションをしっかりと構築していくこと。また、いわゆるアルテミス計画。これは今、米国を中心に連携していくこととなりますが、これをしっかりと推進していかなければならない。

幾つか重点事項を示させていただきましたので、政府としてはこれにしっかりと取り組んでいく必要がございまして、また、宇宙空間は人類のフロンティアでございます。ほとんど、まだルールというルールが整備されていない状況の中でどうやって国際ルールを形成していくのか。そして、我が国としてどういうふうに主体的に参画していくのか。そこが問われていると思います。

また、安全保障の分野では、年末に向けて国家安全保障戦略を含めて、いわゆる3文書を新たにつくっていく。こういう重要な局面にある中で、この宇宙政策委員会の果たす役割はますます高まっていると思っております。

新たに組成された、この会、後藤委員長のまさにリーダーシップを発揮していただく中で、ぜひ、この大胆かつ骨太な議論を精力的に交わしていただけるような委員会であっていただきたいということを期待とお願いを申し上げまして私からの挨拶と代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

続いて、大野内閣府副大臣より御挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

○大野副大臣 皆さん、お疲れさまでございます。宇宙政策担当の副大臣の大野敬太郎でございます。

今、小林鷹之担当大臣から包括的なお話がありました。かつかなり気合いの入った御挨拶であったかと皆さんもお感じになられたのだと思います。我々、実はここに着任する前に自民党の中で宇宙政策を共にやってきた同士でもあり、そして、宇宙だけではなく、経済安全保障とか経済協力・インフラ輸出とか、そういった分野に努力を傾注してきた仲間でもあります。それがゆえにかどうかは分かりませんが、今、この大臣、副大臣というコンビで宇宙政策をぜひ引っ張っていこ

うではないか。こういったことを誓い合っているところであります。

後藤委員長、そして、常田委員長代理、また、委員の皆様、今日は本当にお忙しい中、お集まりをいただきましたこと、本当に私からも心から感謝を申し上げたいと思います。

安全保障、産業のエコシステム、そして、探査はじめ科学。この3本の柱は、自民党の中で宇宙を引っ張ってきた河村先生が基本的に随分昔に打ち立てた柱であります。この努力をずっと続けてきましたけれども、いよいよ本格的に、かつ先ほど大臣がおっしゃったように、スピード感を持って、とにかくこの大きな世界の変化を乗り越えて、そして、日本がしっかり自立すること、基盤を確立するとともに、それをつくり上げるための不可欠性という、日本にしかない技術をしっかりと確立していく。これがまさに重要なのだと思います。

その上で、中身については大臣からお話がありましたのであえて触れませんが、1つだけ申し上げれば、やはりスタートアップ、これは岸田政権の柱の一つになっております。このスタートアップをいかに宇宙の分野でしっかりと根づかせるか。米国などは本当に中心的にものすごくベンチャーが多いわけでありまして、確実にスタートアップエコシステムが成り立っている状況にある。

その一方で、日本はまだまだそこは足りないけれども、しっかりとした息吹を私自身は感じているところでありまして、そういったお金の流れとか、知的財産の流れとか、そういったものが産業のエコシステムに結びついて、それが確実に安全保障あるいは探査にしっかりとつながっていく。それが国力につながっていく。こういった形をやはり目指していきたい。そんなことを思っております。

大臣も最後におっしゃられましたけれども、予定調和的な会議というよりも、ざっくばらんにいろいろなことを自由闊達に形式張らずに議論できるような会になったらいいなと強く思っているところでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

○後藤委員長 ありがとうございました。

続きまして、委員の皆様から宇宙政策委員会の委員としての抱負を頂戴できればと思います。

五十音順で、遠藤委員よりお願いいたします。

○遠藤委員 慶應義塾大学の遠藤でございます。

前の代の宇宙政策委員会から残っておりますのが後藤委員長と私だけになりまして、引き続き葛西会長の御遺志を引き継ぎ、宇宙政策委員会を中身のある、極めて国のためにみんなで検討する貴重な会にしていきたいと考えております。

私の専門分野はエネルギー安全保障や経済安全保障のプロジェクトを大学で運営しておりますが、先ほどの大臣のお言葉にもありましたように、宇宙は科学技術のフロンティアでございます。この10年間の宇宙政策委員会の議論の中で進んだ部分、予算の獲得ができた部分もあるのですが、

やはりこれは宇宙の問題は2周回遅れ、相対的に見ると、欧米にも負け、中国にも負けという劣後した状況であります。ここから何とかどう挽回していくのか。そこがこの次の10年に課せられた大きな命題だと考えておりますので、皆様と共に議論させていただきたいと存じております。

どうぞよろしく願いいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

続きまして、片岡委員、お願いします。

○片岡委員 元航空幕僚長の片岡です。よろしく願いいたします。

安全保障の部分が私の担当分野だと思いますが、8年ほど安全保障部会と基本政策部会で委員をさせていただきました。

小林大臣と大野副大臣がおっしゃるとおりの状況だと思いますが、今回のロシアのウクライナ侵略を見ていますと、安全保障の部分での宇宙の役割が非常に高くなっている。とりわけ安全保障分野における商業宇宙活動の利用が非常に重要性を増しているということで、やはり健全な商業宇宙産業の基盤が極めて重要になってくると考えております。

今、進められております経済安全保障、それから、防衛関連戦略3文書の動きもありますので、大臣、副大臣がおっしゃったように、延長線上、直線的な対応ではなくて、ここで一気に飛躍的な対応ができるような方向に宇宙政策が向かっていけばいいなと考えておりますので、少しでもお役に立てればと考えております。

よろしく願いいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、櫻井委員、お願いします。

○櫻井委員 学習院大学の櫻井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私の宇宙との関わりは宇宙活動法とリモセン法をつくったときに少しコミットさせていただいたのが本格的な参画の経験なのですが、宇宙は今、担当大臣と副大臣からお話でしたが、ちょうど、この10年がまさにむしろ行政としてのスタートアップ段階であって、それをこれから本格的に軌道に乗せていく。そういう段階に入ったのだらうと思います。

いろいろなプロジェクトがありますが、それらを統合するような知的な営為がどうも足りなかったかなというのは率直なところで、これから本格的に宇宙政策を正当なものとして受け入れられるようなものにしていく段階で、広い意味での法的素養が問われるのだらうと考えております。そういう意味で慎重に健全な議論をつくっていくことがとても大事なのではないかと思います。

それで、法律というお話がございましたけれども、やはり海の話とか宇宙の話とか南極の話とか地下の話などのフロンティアの領域は、議論がまだ稠密になりすぎておらず、議論の自由度が高いのが魅力です。クリエイティブなことが言い得る、残された数少ない領域であり、法律研究者と

しましてはやりがいを感じ得る分野だと思います。どうぞ、霞が関的なロジックでそれを収めるようなことのないようによろしくお願ひしたいと思っておるところです。どうぞよろしくお願ひいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、篠原委員、お願ひします。

○篠原委員 京都大学の篠原です。今回から委員を務めさせていただきます。

私、名簿上は生存圏研究所の教授になっておりますが、学生は工学部電気から来ておりまして、一応、エンジニアと考えております。日々、論文を書くだけではなくて、研究は電波を使いまして電気を遠くに送ることをやっておるのですが、企業の方々を今、四十数社集めたコンソーシアムの代表をさせていただいたり、国内外のベンチャーのアドバイザー等々もやらせていただいております。

そのような技術を特に日本的なやり方で社会還元していくためにどうやったらいいのか、日々悩みながらやっております、国際学会でもいろいろなチェアですとかプレジデントをやらせていただいておりますが、やはり外国と比べて、日本のいい点、悪い点、非常に感じておりますので、その技術を中心にして、日本が一番ベストと思われる、きっと日本に向けた技術展開の仕方があると確信しておりますので、そのような方向でこの委員会に貢献できたらと思っております。よろしくお願ひします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、白坂委員、お願ひします。

○白坂委員 慶應義塾大学の白坂と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、この宇宙業界に足を踏み入れたと言っているのか分からないのですが、初めが前の宇宙政策委員会のメンバーでいらっしゃる中須賀先生の中須賀研に学生として入ったのが1990年ぐらいですので、はや30年、この分野に足を突っ込んでおります。その当時からずっと技術的なところをやっているわけですが、その後、三菱電機、最近の言葉で言うとエスタブリッシュドスペースのほうで15年間働きまして、今、慶應義塾大学におります。慶應義塾大学に来てからは国プロのImPACTというプログラムで技術研究開発をさせていただきまして、そこで開発した技術を基にSynspectiveというスタートアップのファウンダーもさせていただきました。

これまでの期間を考えると、本当にこの宇宙政策委員会ができる前、できてから10年、ここですごく大きく宇宙政策といいますか、宇宙に対して国としての動きがやはり変わったのを大変実感しております。その中で、さらに今、まさに小林大臣と大野副大臣の御指示をいただきましたけれども、世の中の変わり方が、レベルが変わってきたのがここ数年感じているところですし、ベースはできたのですが、このままではまた置いていかれるかなと思っております。宇宙業界は異なる業界

から見ると夢とかという話をよく言われるのですが、中にずっといた人間は多分、皆さん、危機感しかない状況かなと今、思っております。

まさに今回から宇宙政策委員会のメンバーにさせていただきましたので、これまでは基本政策部会と安全保障部会のほうでいろいろとお手伝いさせていただいておりましたけれども、これからはまさに後藤委員長と常田委員長代理の下で、とにかく早く結果につなげていくような形で皆さんと御一緒に議論を進めていきたいと思っております。以前、後藤委員長から、「中にいる人間は自ら動け、口だけで言うな」ということを言われましたので、それをずっと心に留めてImpACT時代からやっております。その言葉をこれからも引き続き心に留めながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○後藤委員長 白坂さん、昔の話も含めてありがとうございました。

それでは、続きまして、鈴木委員、お願いします。

○鈴木委員 ありがとうございます。ただいま宇宙安全保障部会の部会長を拝命いたしました、東京大学の鈴木でございます。

私はこれまであまり宇宙政策に関わりのなかった国際政治の専門でありまして、これまで国際政治の分野で宇宙政策を、それこそ白坂先生同様、30年近くやらせていただきまして、宇宙基本法をつくる際も、先ほど大野副大臣からもありました河村建夫先生の作業をお手伝いさせていただいたこともありまして、我が国の宇宙政策、それから、宇宙産業の大きな変化をはた目から見させていただいたわけですが、これからはまさに大きく変わっていく宇宙安全保障の世界。先ほど片岡委員もおっしゃっていましたが、やはりロシアのウクライナ侵攻、それから、今、ちょうど中国が台湾との関係で緊張が高まっていますけれども、こうした部分で安全保障の緊張度が非常に高まっている中で、この宇宙というものは現在の安全保障において不可欠なインフラになっている。これに関しては、我が国はどういう対応をしていくべきなのかについては、まだ十分な備え、十分な対応ができているとは言えない状況にあるかと理解しております。

こうしたグローバルな流れは非常に速いスピードで動いておりますので、そのスピードに負けないうようにというか、そのスピードをきちんと追いかけてながら、我が国にとって適切な安全保障政策はどうあるべきか。先ほど大臣が3文書の改訂を今年の末までに出されるというお話がありましたけれども、それも踏まえて、どうやって宇宙の安全保障政策を進めていくべきなのか。また、今年5月からですが、国連のOpen-ended Working Groupが始まって、宇宙における責任ある行動ということも議論が進んでおりますので、そこにおいても我が国として宇宙空間の安全保障をどうやって確保していくのか。そういうこともアジェンダとしてあろうかと思っております。それも含めまして、この宇宙政策委員会、また、安全保障部会で議論させていただければと思っておりますので、後藤委員長はじめ、委員の皆様からの御指導・御鞭撻をいただいて務めてまいりたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

それでは、松尾委員、お願いします。

○松尾委員 私、慶應義塾大学理工学部機械工学科で教授を務めております松尾亜紀子と申します。

私は専門が流体ですとか燃焼、そして、宇宙推進で、いわゆる工学系で宇宙を開発することにとずっと携わってまいりました。ですから、今の国間の政策ですとか、そういったことについては研究を通してはこれまでは特に考えてきたわけではなく、どちらかといいますと日本の技術を支える意味で人を育て、研究を育て、そしていかに、どうしてもやはり、人数的なことですが、パワーとか、そういったものが少ない中で、いかに学生とかをうまく育てながら日本の宇宙産業に対して貢献していくかということを考えておりました。

私、そういった中におりまして、やはりこの宇宙の大きな波を感じておりました、特につい最近、2020年に私、日本航空宇宙学会の会長をしておりまして、その際に思いましたのは、これまでのいわゆるエスタブリッシュされたような会社だけではなくて、新しいベンチャーの方々の動きが非常に活発になっていることから、そういったものを支援できないかということで、学会の中でそういった支援をする委員会をつくりまして支援を始めたりしております。

これまでは政策ということであまり積極的に意見することはなかったのですが、これまで考えてきました技術的なことの先にあるものの実現のために、私も私なりに力を注ぎたいと思います。よろしく願いいたします。

○後藤委員長 ありがとうございます。

まさに皆さん一人一人から御挨拶いただきましたけれども、多士済々ということで、これからこの宇宙政策委員会を皆さんの力を結集してしっかり運営していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

本日予定していた議題は以上であります。事務局からほかに連絡事項等がありますか。

○滝澤参事官 次回の宇宙政策委員会につきましては、9月に令和5年度の概算要求につきまして御報告させていただく予定でございます。日程等につきましては改めて御案内をさせていただきます。以上でございます。

○後藤委員長 ありがとうございます。

本日の委員会はこれで閉会といたします。小林大臣、大野副大臣、それから、森補佐官、田和次官、御出席ありがとうございます。

以上